

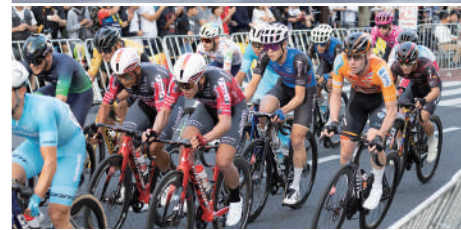
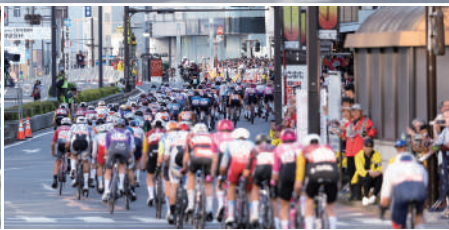
Blitzen Times

October.2026

Vol.108

Race Report

2026.10.17
宇都宮ジャパンカップ クリテリウム
2026.10.18
宇都宮ジャパンカップ ロードレース



10周目の後半には海外勢の動きで集団が一列に伸び、最終盤を見据えたペースアップが始まった。終盤には海外勢を中心とする5名が先行したが、11周目の最終コーナーで集団が吸収。勝負は最終周回へ持ち込まれた。

序盤から海外勢が集団を牽引する中、岡は前方で展開をうかがう。8周目のスプリントポイントでは谷と沢田が前へ。谷がリードアウトし、3位で通過、沢田も5位に続くなど、地元ファンの前で積極的な走りを見せた。

秋空の下、宇都宮市大通りの周回コースで、114選手が33・75キロのレースに挑んだ。チームは谷順成・増田成幸・フォン・チュンカイ・沢田時・岡篤志・宮崎泰史の6名で出場。赤いジャージでのラストランとなるフォンには、レース前のパレードから多くの声援が送られた。

大歓声に包まれ、6選手が世界に挑む

最終局面、岡はフォンの経験とテクニックに支えられ、前方へ。しかし、最終コーナーでは他選手に前を塞かれ、後方からスプリントを開始することに。それでも懸命に追い上げ、日本人最高位の4位でフィニッシュした。優勝はイエスバー・ステイアンソン（UCC）プロサイクリングチーム。岡は昨年の7位から順位を上げ、世界の強豪を相手に力を示した。

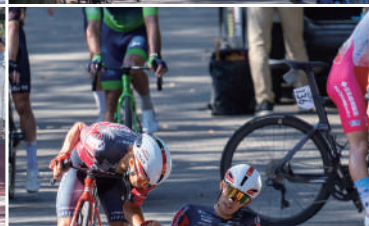
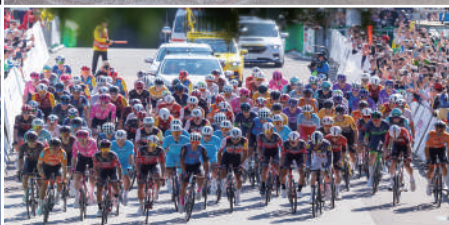
レース後、岡は「精一杯尽くした結果の4位」と振り返り、表彰台を逃した悔しさとともに、来年への決意を語った。フォンについても、最後はいい位置まで運んでもらえたと感じ、「まだまだ一緒に走りたいかった」と惜別の思いを口にした。欧州のトップレベルで長年戦ってきたフォンへの深い敬意にもじまされた。前方にチームメイトがいる心強さを語り、その存在が力になっていたことを改めて明かした。仲間との絆、そして地元の大歓声が、世界に挑む走りを後押しした。

仲間を支えられ、表彰台まであと二歩

地元の大歓声を力に、 岡篤志が日本人最高位4位



10月17日、宇都宮市制130周年記念として開催された宇都宮ジャパンカップブリックリウム。世界の強豪が集う地元の大舞台で、Astemo宇都宮ブリツエンの岡篤志が日本人最高位の4位に入った。退団を発表したフォン・チュンカイをはじめ、仲間の支えと沿道の声援を力に、表彰台まであと二歩に迫った。



今季限りでの退団が決まっている武山はスタート前に「大舞台でチームの力を合わせたい」と決意を表明。沿道の声援を受け、109名が走り出した。

序盤に14名の逃げ集団が形成され、チームはメイン集団で追走。前半は比較的落ち着いた展開が続いたが、8周目に入るころから海外勢のペースアップで集団が分裂し、厳しい生き残りの戦いとなった。8周目終盤、田野の交差点を過ぎたアップダウン区間で逃げ集団が吸収され、上位争いは新たな局面に入った。

地元の大舞台で、世界の強豪に挑む

谷は目標に届かなかった悔しさを口にしながらも、「個人の名前も多く呼んでいたんで、それで踏ん張れたと声援に感謝。鈴木真理監督も現状の力を出し切ったと評価しつつ、海外勢の度重なる加速に対応する力を課題に挙げた。地元の応援を胸に、チームはさらなる成長を目指す。」

優勝争いはクイン・シモンズとベン・ヒリーの一騎打ちとなり、シモンズがスプリントを制した。谷はチーム最高位の26位、岡は32位で、ともにUCIポイントを獲得。沢田は43位で完走し、増田・武山・宮崎は途中棄権となった。完走者は48名だった。

世界の強豪を相手に、粘りの走りを貫く

地元の声援を力に、 谷・岡がUCIポイント獲得



10月18日、宇都宮市森林公園で開催された宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース。Astemo宇都宮ブリツエンは世界の強豪を相手に、谷順成がチーム最高位の26位、岡篤志が32位でUCIポイントを獲得した。地元の大歓声に支えられ、厳しいサバイバルレースを戦い抜いた。

NEXT HOME RACE

宇都宮シクロクロス

期間 ▶ 12月5日(土)・6日(日)

会場 ▶ 道の駅うつのみや
ろまんちっく村

〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙254



※写真は昨年の大会のものです。

私たちはAstemo宇都宮ブリッツェンを応援しています。

Astemo



Thank you for your support.

Blitzen 7